

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2021年 司教年頭書簡を受けて

第4回 コロナと新しい生活様式



コロナは風邪のウイルスで、東アジアには四つのコロナウイルスが存在している。厚労省HPにも、新型コロナウイルスは風邪の一種という記述がある。欧米の死者数を見ると、今回のコロナは強めのそれであることがわかる。東アジアはコロナに慣れているのか被害が少ない。因みに毎年インフルエンザの感染者は厚労省の統計によると推計1千万人、死者数は1万人。年明けから同省の統計を見ているのだが、昨年と同じ時期の千分の一の感染者数だ。インフルは全く流行っていない。インフルは子どもに厳しい。死者もさることながら、脳症を引き起こす割合が0歳から9歳が全体の70%を占める。比して新型コロナウイルスは子どもに優しい。今もこども園で子どもが大声で走り回っている。

新型コロナウイルスの影響下、活動が制限される一方、リモートワークなど新しい働き方が促進された。私は東京・大阪・京都と度々往来していたのが、ZOOM会議にとって代わった。仕事終わりに東京駅で崎陽軒のシウマイ弁当とビールを調達し、のぞみの車中一人晩餐に興じるのが楽しみだったのに。人と人が隔たる。震災時は絆が合言葉だった。今はソーシャルディスタンス。絆を売り物にしていく飲食業・サービス業・アーティストたち

は大変だ。その隙間を埋めるように新規産業が台頭している。

内閣府ムーンショット計画にこんな目標がある。「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」。30年後、どんな社会が実現しているのか。いや、「思う」ことを省いた便利で快適な社会なのだろう。続けてサイバネティック・アバター生活と題して、「2030年までに、望む人は誰でも：社会通念を踏まえた新しい生活様式を提案する」とある。新型コロナウイルスのため、仕方なく新しい生活様式に移行するわけではない。

教会も時流に乗り新しい宣教観、教会観を余儀なくされるのか。つまらない会議のために往復の時間を費やすのは嫌だが、もし「身体、脳から解放される新しい生活様式」を本気で目指す不可思議な社会に向かうならおおいに躊躇う。

わが国では1時間に40人が癌で亡くなる。年間10万人が肺炎で亡くなる。三重県では年間四百件から五百件の死産が報告されている。2020年日本の人口は前年より40万人減少。死者は前年より1万人減少。あまり死ななかったがあまり産まれない。世界人口は8千万人増加したが、飢餓と貧困で1日に1万人が死んでいる。神は与え、神はとられる。神の名に賛美。

三重地区南部ブロック担当司祭

奥村 豊

5
2021

よつこそ神父さん
はじめまして

濟州教区司祭 ソ・ウォンハ



はじめまして。
私はチェジュ(濟州)教区から派遣されたソ・ウォンハ(ペトロ)と申します。

昔、私がまだ赤ちゃんだった頃に、父親の仕事で家族と一緒に日本で暮らしたことがあります。その時に日本語を覚えただけですが、中学、高校に入ってからすっかり忘れてしまいました。けれど、私に日本語を思い出せるように助けてくれた「特別な先生達」がいました。その先生達は、京都教区の青年と信者の方々です。

神学生の時、京都教区とチェジュ教区は姉妹関係として、いろいろな行事を共に歩んできました。その中で、青少年大会を含め、青年交流などに私も参加してきました。あの頃に会った青年達には申し訳ないほど私の日本語は未熟でしたが、彼らに単語と文法、いろいろな文化や教会の話などを教えてもらって、頭と心、そして夢までもすぐ成長すること

ができました。またいつかお世話になった京都教区に恩返しをしたいと、心を決めていました。

去年の1月に京都教区への派遣が決まり、準備をしている間にコロナが全世界に広がりました。入国禁止の上、どこにも行けず待ち続けて、やっと10月14日に京都教区の滋賀ブロックに着きました。

はじめましての方にも、お久しぶりの方にも「会いたい」という思いは山ほどありますが、会うことすら難しい状況に直面しています。教会に行くことで他の人から白い目で見られたり、感染の危険を抱えてミサに行くことになる皆さんの気持ちを考えると、心が折れそうになります。しかし、イエスさまが弟子達に対して、急がずに、ゆっくり、一緒に歩んでくださったことを思い出しながら、私も京都教区の皆さんとゆっくり、一緒に歩みたいと思います。

実際、私にはコロナを終わらせる力や、信仰をより深くする能力はありません。ただ、神様からいただいたお恵みと、京都教区からいただいた感謝の心を持ち、これから共に進む皆さん一人ひとりへの感謝を伝えながら、生きたいと思っています。司祭としても、日本語にしてみただけ物足りないですが、一緒に支え合って、素敵な思い出を作りながら、信仰生活を送っていききたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

ソ神父さまに質問!

Q 生年月日を教えてください。
A 1990年7月16日です。韓国では、生まれた時が1歳。元旦に年を取るので、日本では30歳ですが、韓国では32歳です。

Q チェジュの自慢はなんですか。人々が優しく、心が温かいこと。そして景色が美しいことです。

Q いつ、司祭になられたのですか。
A 2019年1月19日に叙階されました。

Q 日本で、行ってみたいところはどこですか。
A 長崎に行って、教会や殉教地を回ってみたいです。

Q 日本の食べ物で、何が好きですか。
A ラーメンもカレーも好きです。

Q どんな司祭になりたいですか。
A 教会でのいい思い出があると、教会から離れていても戻ってこられます。教会でみなさんと素敵な思い出を作ることが司祭としての一つの目標です。

乾隆神父のイタリア留学記(5)

京都教区司祭 大塚乾隆

今回は、小教区での体験について分かち合いたいと思います。二月末の土曜日、ローマ市内ですが、少し中心から外れたところの小教区の活動を見学してきました。イタリアに来てから初めての教会学校の見学なので、子どもたちとの関わりは一年半ぶり、小教区でのミサはペルー以来なので半年ぶりでした。日本にいたときは「当たり前」だった小教区での活動が、こちらに来てからはあまりにも「久しぶり」すぎたので、帰ってからは体は疲れてすぐに寝てしまいうぐらいでしたが、心はとても満たされました。

大学で勉強することは大切なことですし、多くの学びに感謝しています。教会の歴史を通して、その当時の人々の様子を学び、今の私たちの生き方を考えることができるのです。でもやはり私は「今生きている人」の輪の中が好きなんだと実感しました。子どもたちやリーダーたちとの関わりを通して、生きたイタリア語を学び、小教区の様子を学べることは、大学での勉強に良い刺激を与えてくれます。私が見学に行った小教区の管轄人口は2万人弱ですから、一つの小教区

だけで京都教区の信者数と同じくらいです。その意味では、組織運営の点で日本の小教区はイタリアの小教区から学ぶことは少ないかもしれません。でも、リーダーが子どもたちに教えるイエスさまのことは同じです。どうやって、難しい言葉を使わずにイエスさまの、聖書の教えを実際の生活に当てはめるか、そしてそれを担ってくれるリーダーたちの育成の観点では、学ぶことがたくさんあるように思いました。

さらに、土曜日の晩のミサで共同司式をさせてもらいました。コレジオで毎日捧げているミサも、小教区でのミサも、イエスさまのミサであることには変わりません。でも、半年ぶりの小教区でのミサはとても嬉しかったです。いきなりやってきた日本人の私が、祭服を着て一緒にミサを捧げ、「キリストのからだ」と言って聖体を配っている。大げさな言い方になるかもしれませんが、「カトリック」でなければできなかったでしょう。もちろん聖体のイエスさまだけが特別なものではなく、みことばの中にも、神の民の集まりの中にも、至る所でイエスさまは私たちと共にいらっしゃるわけです。今回私は、聖体拝領の時に、私たちがイエスさまを通してお互いにつながっていることを特に感じました。

イタリアでは、あいさつとして握手やハグが普通に行われていました。でも、

コロナのせいで今までのような人との触れ合いはできなくなりました。でも、聖体拝領の時だけは違います。去年イタリアの司教協議会から通達が出て、今のイタリアでは公開ミサの時に口での聖体拝領はできませんから、「イエスさま」を手渡しするわけです。いくら人と触れ合うのが難しくなっていたとしても、「イエスさま」は直接、一人ひとりに「委ねられる」のです。司祭は聖体授与の通常の奉仕者としてイエスさまを「渡す奉仕」に徹します。平日の学生生活では、この点での信者さんとの関わりがないので、時として自分が司祭であることを忘れてしまいそうになります。その意味でも、この限られた時間は、自分にとって何よりも大切な時間だと思いました。



2017年3月の叙階式の時の写真。司祭になって4年が過ぎました。

「キリストは生きている」

書籍と動画紹介



一昨年、教皇フランシスコは、青少年をテーマにしたシノドス（2018年世界代表司教会議）を受けて、青年とすべての神の民へ向けて使徒的勧告「キリストは生きている」を発表されました。

教皇は、本書で現代の青年が直面している様々な問題について語るとともに、青年たちが自分の召命に忠実に歩めるよう、彼らに向けて直接励ましの言葉を語っておられます。第四章で教皇は、今もっとも重要なこと、誰もがいつでも、頻繁に耳に入れておくべき三大真理「神はあなたを愛しておられる」(112)「イエス・キリストはあなたを救う」(118)「イエス・キリストは生きている」(124)を、信仰者としての自身の体験から確信をもって語っておられます。その言葉は青年だけでなく、青年期を通じて来たキリスト者にとっても心を燃え立たせてくれるものです。みなさまにご一読をお勧め

京都教区の 青年信徒、先輩信徒からのメッセージ

寄せられたメッセージの一部を紹介します↓↓

〈青年 ソフィアさん〉



第4章を読んで、最も心に響いた言葉は、「121.主に愛されている若者のみなさん。」という教皇様の言葉です。私たち若者はカトリック教会の中で、主に愛されている者、神様に愛されている者である、と教皇様はここに宣言してくださっています。

(続きは動画で)

〈先輩信徒 シュウさん〉



第4章を読んで、気になったところは、「131.この素晴らしいメッセージの体験をあなたが新たに重ね続けていけるよう毎日聖霊に願い求めなさい。」というところです。

神に愛されている、ゆるされている、という思いは、一度だけではなく新たに重ねて、深めていくものなのですね。(続きは動画で)

いたします。

また、福音宣教企画室では、この第四章の教皇のメッセージを多くのの人に受け取って欲しいと願い、メッセージ紹介動画を作成いたしました。動画では、教皇の言葉と共に、喜び、悩み、迷いながら信仰を生きている京都教区の青年たちや、イエスとともに人生を歩んで来た大人の信徒たちの声のメッセージを視聴することが出来ます。キリストは生きておられ、共にいて、励まし導いてくださる

ことを証ししてくださっています。こちらもぜひご覧ください。

「キリストは生きている」紹介動画は、YouTube「カトリック京都教区」で検索するか、下のQRコード、または京都教区ホームページ福音宣教企画室ページからどうぞ。いろいろな人のメッセージを聴くことが出来ます。

福音宣教企画室



トランプのヨセフ

「彼は大工ヨセフの子ではないか」



高野教会聖堂内のヨセフ像

が、これこそ本当に難しい。

故郷ナザレで、イエスは受け入れられませんでした。ルカ(4・16〜30)は、イエスのナザレ訪問と説教が三度ほどあったように描きますが、人々はイエスの「いのちの言葉」を聞き、その偉大な奇跡に触れ、その出合いを重ねれば重ねるほど、誤解は深まり、ついにイエスを追放するだけでなく、殺そうとまで図ります。理由は、テクトーン(大工・石切り工)に過ぎないのに、知恵(ことば)を持ち、奇跡(神力)を行うことが理解できなかったのです。そして、父ヨセフにも、母マリアにもそんな才能はない。それで躓く。

でも、私はイエスがこのヨセフの職を、「敬愛する父」の仕事として受け継がれたことに注目したいのです。父の仕事を誇りに思うキリストの孝心を。イエスを通して、ヨセフの見方はぐっと尊敬に変わります。

広報委員会担当司祭 村上透磨

人を正しく評価することや、真に人を尊敬し愛するということとは、簡単で当たり前だと思っ
てしまいません

青年センター運営委員への5つの質問

2021年度 京都カトリック青年センター 運営委員 紹介(2/2)

今年度、青年センターの運営委員として活動する青年を2回に分けて紹介します。今月は、京都地区と奈良地区の青年に5つの質問をしてみました。質問内容は、
①名前 ②所属教会 ③好きな聖歌 ④オススメの青年イベント ⑤一言です。

京都地区		奈良地区
<p>継 続</p> <p>①N. O. ②河原町教会 ③主よ み国に ④Y E S ⑤昨年度とは違う1年になりますように!</p>	<p>新 規</p> <p>①橋本 仁子 ②河原町教会 ③復活の続唱 ④Y E S (京都教区の仲間たちとのんびり交流できるので!) ⑤社会人になり、再び青年センターに関わることができていることを嬉しく思います。成長したなと思っています。ただけるように頑張ります!</p>	<p>継 続</p> <p>①松浦 隼人 ②田辺教会 ③いつも喜んでいなさい ④聖書の集い ⑤今年は去年の分も交わりを大切にしたいです!</p>



青年活動を盛り上げていけるよう、お祈り、ご支援ください。よろしくお願いたします。

京都カトリック青年センター 運営委員 一同

青年センターあんでな

大塚司教の5月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の影響のため、スケジュールが変更される場合がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



5月のお知らせ

教 区

広報委員会

お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区本部事務局宛

- ・メール/honbu@kyoto.catholic.jp
- ・Fax/075(366)6679

発信者のお名前を明記の上お寄せください。

※ 7月号の原稿締切り日は5月24日㊥です。

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練習：9日㊥・30日㊥ 14:00
洛星宗教研究館
22日㊥ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂
現在活動休止中。再開時、団員には連絡します。

問合せ：075(951)4283 則武 隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練習：13日㊥・27日㊥ 10:00
河原町教会2階楽廊
中止の場合は連絡網にて連絡します。

問合せ：075(701)3303 岡田久美

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：9日㊥ 15:30~17:30
対象：15歳~35歳の方 どなたでも
問合せ：090(8207)1831 瀧野正三郎

聴覚障がい者の会

手話表現学習会(聖書と典礼)

日時：27日㊥ 13:00~15:00

場所：希望の家地域福祉センター

京都市南区東九条東岩本町31-10
各自感染防止対策を行い、自己判断でご参加ください。感染症の蔓延状況により中止となる場合もあります。問合せは事務局まで。

事務局：Fax/075(361)9082 阿野恵子

心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

KBS京都 ㊥~㊤ 朝5:55

㊥ 朝5:15

ラジオ関西 ㊥~㊤ 朝5:00

㊥ 朝6:05

5月のテーマ「心のなごみ」

6月のお知らせ

正義と平和協議会

学習会

「私たちは、今ここにいる

~日本の移民問題とは何か~」

講師：鳥井 一平さん(移住者と連帯する全国ネットワーク代表)

日時：5日㊥ 14:00~16:30

会場：カトリック河原町教会

ヴィリオンホール

参加費：無料

申込：正義と平和協議会(先着40名)

電話/075(366)6609 ㊥㊥ 10:00~17:00

Fax/075(366)6679

Mail/seiheikyo@kyoto.catholic.jp

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

Tel・Fax/079(431)8601

スマートフォンでQRコードを読み込むとチラシが見られます。

